

平成23年度 第2回 京都市伝統産業活性化推進審議会

日時：平成24年2月21日（火）14：00～15：30

会場：京都ロイヤルホテル&スパ 2階 翠峰の間

出席者

柿野 欽吾	会長（学校法人京都産業大学理事長，京都産業大学経済学部教授）
高木 壽一	副会長（元京都市副市長）
若林 靖永	副会長（京都大学大学院経営管理研究部教授）
井澤 一清	委員（市民公募委員）
大谷 貴美子	委員（京都府立大学生命環境科学研究科教授）
佐治 壽一	委員（京の伝統産業春秋会会長）
島田 昭彦	委員（株式会社クリップ代表取締役社長）
滝口 洋子	委員（京都市立芸術大学美術学部准教授）
日野 明子	委員（スタジオ木瓜代表）
山舗 恵子	委員（株式会社京都リビング新聞社統括編集長）
湯浅 靖代	委員（市民公募委員）
若林 卯兵衛	委員（京都府仏具協同組合理事長）
渡邊 隆夫	委員（西陣織工業組合理事長，京都商工会議所副会頭）
細見 吉郎	委員（京都市副市長）
白須 正	委員（京都市産業観光局長）

欠席者

大畑 眞知子	委員（京都市小学校長会副会長，京都市立藤城小学校校長）
河村 和子	委員（京の伝統産業春秋会監事）

1 開会

2 細見副市長挨拶

3 議事

報告事項 1 第2期京都市伝統産業活性化推進計画（仮称）素案に対する市民意見募集の結果について

議 題 1 第2期京都市伝統産業活性化推進計画（仮称）最終案について

4 意見交換

<委員>

- ・ 計画自体は良いと思うが，今後具体的にどのように推進していくかが課題である。
- ・ 伝統産業とか伝統文化というのは国民の共有財産である。京都市民とか京都府民だけのものではなく，日本国民の共有財産であるという趣旨のことを計画に盛り込めないか。

<委員>

- ・ 重点戦略の中で「隼（かい）より始めるプロジェクト」というのを挙げている。市役所や職員が積極的に伝統産業製品を活用することにより，国内外からお客さんが来られた際に話題になるしPRもできる。

<委員>

- ・ 今後この計画をどう推進していくかが重要であるが、基本理念1の箇所に「事業者や業界の創造的な取組と工夫により新たな市場を開拓し、市場の縮小に歯止めをかける」、そして、その具体的な目標の1番目に「出荷額の減少を食い止める」と掲げている。また、基本理念2の箇所では、「次代の伝統産業を担う人材の育成、技術の継承につながる機会を創出し、従事者の減少に歯止めをかける」、そして、その具体的な目標の1番目に「従事者数の減少を食い止める」と掲げている。京都市、業界関係者、それからサポートしていただく皆様には、是非とも御協力をお願いしたい。

<委員>

- ・ 最近では、ファッション誌などで「職人は格好いい」ということで、若い職人さんが取り上げられている。こういう成功例があるということをしてPRしていくことで、若い職人さんに自信をもってもらうことが必要ではないか。
- ・ 2月に京都市が東京ミッドタウンで着物、京焼・清水焼、金属工芸品、未来の名匠の作品展示などを行うイベントがあったが、その中でドレスコードが着物、立食で5,000円というイベントがあった。一般的に5,000円は高いし、着物で立食というのもハードルが高いと思うが完売だったそうである。イベントの内容や告知の方法が良かった結果だと思うが、着物を着る機会を求めている人が多いことがわかった。

<委員>

- ・ 「和のある暮らし」という記述があるが、「和」という言葉には、伝統産業製品などを指す「もの」ということだけではなく、もっと広い精神的な意味も込められた言葉である。「和のある暮らし」イコール「京もののある暮らし」であるとすれば、伝統産業あつての「和のある暮らし」、日本型の生活提案ということになり、そういう意味では京都の伝統産業というのは日本の国民的財産と言っても過言ではないという趣旨のことを盛り込んで良いのではないか。
- ・ また、京都で伝統産業に従事する人たちは国民の共有財産と言っても過言でないものに従事しているという認識を十分にもってもらおうという意味においても、「国民的財産」という表現を加えても良いと思う。

<委員>

- ・ この計画は本当にまとまっていると感心しているが、この1つ1つの項目を実際に誰がどのようにやるのが大事である。伝統産業には色々な業種があるが、例えば、産業として頑張っている業種と、保護・保存をしなければいけない業種などに分類し、それに応じた施策を進めていかなければならないと思う。
- ・ 後継者育成に関して言えば、物が売れば勝手に後継者が育っていくとは思いますが、もう少し後継者を育てて雇えるような事業を展開しても良いのではないか。
- ・ 良い物を作るにはAランクの職人さんを集めないと出来ない。そういう意味で、製造問屋は必要である。職人さんに脚光を浴びさせてはどうか、という意見も聞くが、優れたプロデューサー、トータルデザイナーがいれば、職人さんにもきちんとスポットは当たると思う。

<委員>

- ・ 外国人の目から見ると、ストーリーが必要だと思う。いきなり物を出されても外国の人は全く受け入れてくれない。どういう背景で作られ、それが彼らのどの部分の琴線に触れたのかということを検証してみる必要がある。

- ・ 東京での着物イベントが成功したのも、ターゲットと企画性が良かったからである。単純に着物を着て集まってくださいではだめで、何かものづくりをするにしても、しっかりとした企画があって、その背景のストーリーをちゃんと伝えられる物まで準備しておくことが必要である。

<委員>

- ・ 計画自体は素晴らしいと思うが、具体的にどう進めていくかということが大事である。
- ・ 市立芸大でも色々な職人さんたちとコラボレーションをしているが、やはり物が良いだけでは売れなくて、どんな背景で作られ、どんな場所で使われるかという、物だけではなくその周りのプロデュースが非常に重要である。
- ・ また、多くの人に興味をもってもらいたいが、行政の支援は1つのイベント、1つのプロジェクトが終わるとゼロに戻ってしまうことが多いのもう少し長いスパンで事業を進めてほしい。
- ・ 複数の業種、産地組合等と連携して事業をする場合、非常に難しいことが多いので、行政にはその点の支援もお願いしたい。

<委員>

- ・ 複数業種との連携について言えば、京都は73品目と業種が多すぎるので、これなら連携して出来るという情報がなかなか共有できない。
- ・ 一番良いのは京都には有名人が多いので、「私も使っています」という情報をもっと発信してほしい。マスコミの影響力はすごいので、有名人をもっと利用する取組を進めてほしい。

<委員>

- ・ 京都や東京の高級ホテルのショップでは、作家の名前でいろいろな商品売っている。「京都ブランド」と良く言われるが、作家性のある物を強く打ち出して、「京もの」にはこういう作家がいるということをアピールしていくことも1つの方向だと思う。
- ・ 私も東京での着物イベントに参加したが、参加者の皆様になぜ参加されたのかと聞いたら、「着物を持っているけれども着る場がない。」という人が多かったので、そういう場を作っていくということが大事である。

<委員>

- ・ 大事なのは「京もの」+「京こと」である。実は「京もの」だけではなくて「京こと・京都のこと」の部分にストーリーが含まれ、背景がある。そこが人々の心を打つ部分であり、「京こと」をどのように作り出していくのが重要である。
- ・ 地域活性化で、「よそのもの・わかもの・ばかもの」という言葉が言われるが、結局プロデュースしたりする人は、実は外から来た人が多い。違う視点、違う目線の、京都からより遠くに離れていけば離れている人ほど、京都の価値を高く理解してくれていることもある。そのような人に対してどれだけ伝えることができるのかということも求められている。

5 閉会

<柿野会長>

- ・ 今日いただいた意見は、副会長、そして事務局とも協議のうえ、最終案に生かせるよう検討させていただく。また、最終案については、3月に審議会から京都市へ答申し、今年度中に京都市として「第2期京都市伝統産業活性化推進計画」が正式に策定される予定になっているので、よろしくお願ひしたい。